

お子さんやお孫さんに ワクチンを勧める前に

3月から12歳未満の子どもたちの接種が始まるかもしれない。わが子や孫に接種を勧めるのか。その判断材料となる資料やデータは全て厚生労働省のホームページに載っている。しかしその正確な情報を知らない人は意外に多い。ここでは厚労省のホームページから、接種前に最低限知っておきたい最新情報をピックアップして、今一度、未成年者の接種について考えてみたい。

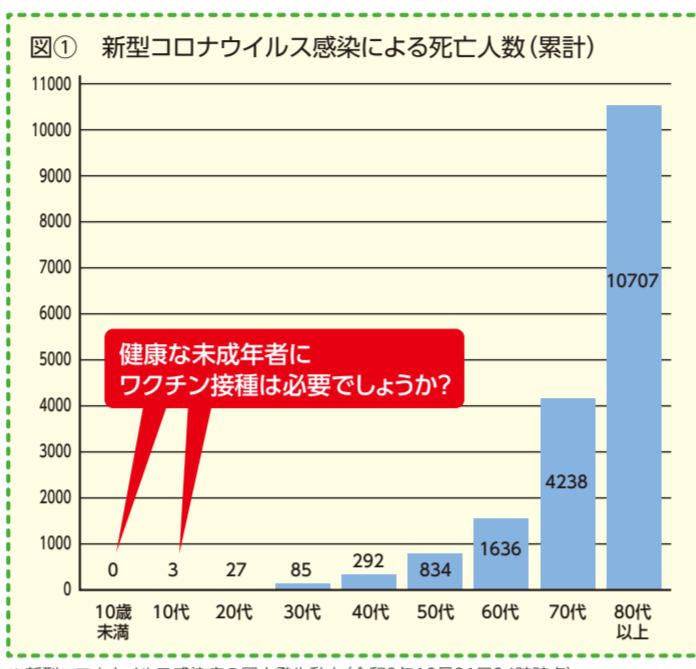
厚労省ホームページから「未成年接種」を考える

未成年者のワクチン接種後 重篤者341人・後遺症8人・死亡者5人

未成年者（0歳〜20歳未満）がコロナワクチンを接種するメリットは何だろうか？厚労省の資料（図①）によれば、未成年者のコロナ感染死はこれまでに3人いるが、その内の2人は元々重篤の基礎疾患があったことが分かっている。そしてもう一人はコロナ感染ではなく事故で亡くなり、その後のPCR検査で陽性反応が出たために「コロナ感染死」扱いになったものだ（東京都発表）。つまり、これまでにコロナ感染で死亡した健康な未成年者はただの一人もいない。重症化もほとんどしていない。

これまでオミクロン株も含め新たな変異株が出るたびに、様々な専門家が「子どもも重症化する可能性がある」と警告してきたが、実際は感染してもほとんどが軽症で済んでいる。未成年者にワクチンが必要ないことは厚労省のデータが証明していると言える。

ところが未成年者がそもそも必要ないはずのワクチンを打つことによって、多くの重篤者（命の危険が迫っている患者のこと）や死亡者が出てしまっている。昨年10月30日には13歳の少年がファイザー製ワクチンを接種した4時間後に入浴、浴槽内で水没しているのを発見されている。また、未成年者のワクチン副反応疑い報告はすでに**1525人にも上り、そのうち**



しかしその目的のために、子どもや若者に自らの命や健康を賭かせること自体がそもそも非倫理的ではないだろうか。大阪府泉大津市の南出市長は、大阪府立大学の井上正康名誉教授（分子病態学）から教示を受け、当初からこのような事態を想定していたため、若年層の接種に慎重な姿勢を示してきた。今後はこのような自治体も増えてくるかもしれない。

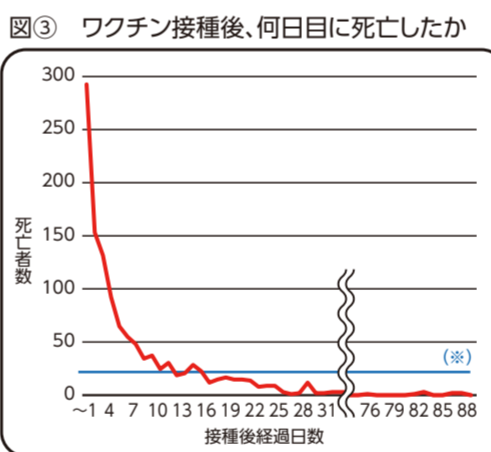
ワクチン接種と1400人超の死亡は 本当に関係ない？

未成年者にとって有害なもの、大人にとっても有害な可能性がある。事実、コロナワクチン接種後の死亡の中で、医師がワクチンの影響を疑って厚労省に報告した事例が、12月17日時点で**1430人**（ファイザー製1365人・モデルナ製65人）に達している。しかしワクチン接種会場で突然死亡した場合も含め、厚労省は一人として因果関係を認めない。つまり、厚労省のホームページに明記されている通り「接種が原因で多くの方が亡くなった」という

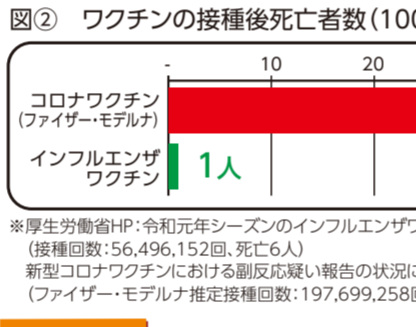
「これはありせん」という見解だ。そうだとすると、死亡した人たちはワクチンと関係なく、その時たまたま何かの病気で亡くなったことになる。

しかし、それではなぜコロナワクチン接種後にはたまたま大勢の人が死亡するの、インフルエンザワクチンでは、それが少ないのだろうか。その理由は「たまたまの死亡」ではないからと考えるのが普通ではないだろうか。そう考えると、コロナワクチンの接種そのもので

原因で多くの人が死亡した可能性も考えざるを得なくなる。そして、この可能性は、ワクチン接種後の死者を「接種後、何日目に死亡したか」で分類すると、さらに興味を帯びてくる（図③）。もし本当に死亡した人達にワクチンと関係なく、たまたまその日に何かの病気で死亡したのであれば、毎日の偏りはさほど大きくないはずで、青線のように、ある程度ならされた分布になることが予想される。しかし実際には接種した



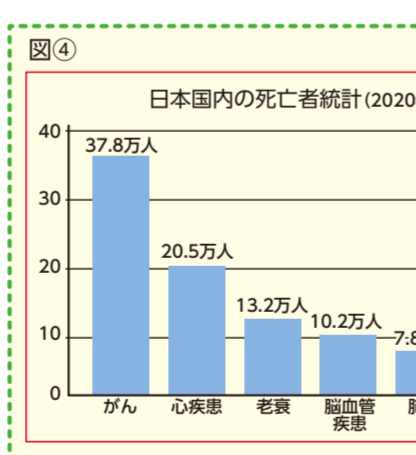
図③ ワクチン接種後、何日目に死亡したか
厚生労働省HP 新型コロナワクチン接種後の死亡として報告された事例の概要(令和3年12月24日)より作成
接種当日(0日)の死亡者数は、接種後の経過時間が短いため1日に含めて集計



POINT!
厚生労働省HPに掲載されている「**コロナワクチン3つの事実**」

- ① インフルエンザワクチンと比べて、**接種後死亡が圧倒的に多い。**
- ② 接種した翌日までに死亡した人が**圧倒的に多い。**
- ③ 接種後死亡者の死因は、**血栓症や循環器系障害が圧倒的に多い。**

推測 「ワクチン接種」が原因で死亡した人がいるのでは？



新型コロナウイルス感染死【累計】(2021年12月21日まで)
日本には、**深刻な病状を伴った1.8万人**の新型コロナ

もちろん、個々の因果関係は分からないが、死者の死因も「差別ではなく、**血栓症**（血の塊が血管を塞ぐ病気）や**循環器系**（心臓・全身に血液を循環させる血管ネットワーク）障害が圧倒的に多い。この偏った分布にはまだ明らかにされていない何らかの**有害性**があり、それが原因で「これまでに健康な子どもや若者も含め、多くの人が死亡した可能性は決して否定できないだろう。」

ワクチンの安全性は 2023年5月まで不明

厚労省はホームページに「ワクチンが不正出血や月経不順を起すことはありません」と明記しているが、イギリスでは生理関連の副反応を訴える報告が3万件以上上っている。アメリカでも同様の事例が多発しているため、米国立衛生研究所(NIH)が昨年9月末から調査を始めている。生理不順や無月経、生理痛の増加、生理量の变化などの症状だけでなく、閉

経したが生理が再開したという副反応まで報告されており、日本国内においても不正出血や月経不順を訴える例が増えてきている。

ワクチン接種に関しては、この他にも心筋炎の症例が多かったり、3回目のワクチン接種が必要になったりと、厚労省も製薬会社も想定していなかったことが数か月の間にいくつも起

っている。その理由は、今回のワクチンが人体に用いるのが初めてであり、有効性も安全性も2023年5月まで不明（ファイザー）の「臨床試験中の実験試薬」だからだ。それは**人体への長期的な影響が誰にも予測できない**ことを意味する。

河野太郎元ワクチン担当大臣は、自身のブログで「治験が省略されることなく実施され、一層的安全性について特段の不安がある」と断言している。ところが事実は違っており、厚労

省は「審議結果報告書」の中で「接種後長期の十分な安全性データが得られていないことには留意が必要である」と記載している。ワクチンの安全性を確認する手続きを特別承認で省略してしまったため、厚労省も今後数年に渡って何が起るかが分からないまま接種を推進しているのが現状だ。

また、ワクチンが生産機能に及ぼす影響についても注意が必要だ。ファイザーが厚労省に提出している「薬物動態試験の概要」には、ワクチンの成分

が確実に**卵巣や精巣**にも集まる動物実験のデータがある。厚労省ホームページには「**不妊にならない**」との記載は一言もなく、ただ「現時点では、ワクチン接種が不妊の原因になるといって科学的な根拠は報告されていません。」と書いてあるだけだ。

これについて前出の井上正康大阪府立大学名誉教授は「ワクチン接種が始まったばかりのため、不妊の根拠が報告されなかったら、**これから数年〜数十年**後のことである。何らかの異変

や有害事象が起る可能性は否定できない。臨床試験中の実験試薬とはそういうものであり、動物実験で危険性が示唆されている治療薬を生産世代に接種すること自体、極めて非常識である」と警告を鳴らしている。

最後に想像してほしい。もしあなたの子どものお孫さんがワクチン

接種後に突然亡くなったたり重大な健康被害に遭ったり後遺症が残ったりしたら、ワクチンが原因ではないかと疑ってしまうのではないだろうか。また、「因果関係なし、不明」という発表に納得できなかったらどうするか。そして接種を勧めたことを後悔し続けるのではないだろうか。そのような悲しくやりにきれない思いをしている親御さんが実際に何人もいて、これは決して他人事ではない。



本当に必要ですか？

子どもへのワクチン

(賛同団体) 岡山・倉敷新型コロナウイルス感染対策市民審議会

ここでは、ワクチンの「危険性」の一部を紹介しました。掲載できなかった、その他の詳しい情報は、下記ホームページをご覧ください。

皆様からのご支援で活動しております。

右QRコードからもご覧頂けます。

<https://jcovid.net/>

ゆうネット 意見広告 検索

メールまたは上記QRコードよりご意見・ご感想をお寄せください

Eメール mail@dbank.jp

株式会社ゆうネット
新型コロナウイルス関連情報発信センター
代表取締役 堤 猛 (ご意見はメールよりお願いします。)
福岡県福岡市中央区天神4-1-17 2F TEL 092-235-2470

*ここでの内容は、主に厚労省ホームページに掲載されている情報や新聞各社で報道された情報を基にしています。